



# ANNUAL REPORT 2020

2020年度 事業報告書



日本YMCA同盟

みつかる。  
つながる。  
よくなっていく。

# 世界同時パンデミックの今こそ ポジティブネットのある社会を

2020年は、歴史に残る世界同時パンデミックとなり日本国内も緊急事態宣言の中で新年度を迎えました。全国のYMCAではウエルネスや英語などの事業もほぼ停止となり、専門学校の入学者も自宅待機、外国人留学生の入国が規制されるなど、先行きの見えない状況となりました。しかしそのような中、保育園、学童保育などの子育て子育ち事業、高齢者福祉事業は、医療従事者や社会のインフラを支える保護者のために感染予防を徹底した上で事業が継続され、全国のYMCAの4割近くを支える事業となったことは希望でした。

多くの人々が“ステイホーム”や“テレワーク”、“三密”など聞き慣れない言葉を聞いて戸惑い、緊急事態宣言により人と会うこと、触れ合うことができない状況となりました。そしてそれは日本だけでなく世界も同様という未曾有の事態となりました。

そのような中、世界YMCA同盟から出されたメッセージは、産業革命の激変の中で苦しむ青年たちを見た同時代の青年が、何をすべきか祈りつつYMCAが誕生したように、パンデミックで困難の中にある人々や社会のために何ができるか祈ることから始めようというものでした。そこで日本のYMCAで私たちが最初に行ったことは、加盟YMCAとともに祈る「共同の祈り」であり、「#はなれていてもつながっている」キャンペーンでした。大切な人のいのちを守る目的でオンラインを活用するキャンペーン「#はなれていてもつながっている」では、若手スタッフやユースリーダーがメンバーや会員に向けて、家でできる体操、家でできるダンス、キャンプソングを歌うなどの手作り動画を作成し配信しました。その後も集まることは難しく、総主事会議、理事常議員会、6月の同盟協議会までもすべてがオンラインでの開催となりました。オンラインの活用は拡大していき、チャリティーランをバーチャルで行い、年が明けて2月に行われた日本YMCA大会ではYouTube配信を行い、3月の日中韓平和フォーラムも同時3カ国通訳機能を活用して開催するなど、新しい取り組みにより全国の連帯、そして隣国との平和の歩みを進めました。

また、コロナ禍で露わになった貧困や格差に対応し、経済的な支援をするため、企業からの大型物品寄附を含めたポジティブネット募金の開始、教育格差を埋める新しいテクノロジーを学ぶAmazon Future Engineerなどプロジェクト型寄附を展開し、誰にでも公平にチャンスのある社会の創造を目指しました。また、コロナ禍でも事業を継続してきた子育て子育ち事業を中心に、一人ひとりが社会をよりよく変えていく担い手の成長を願いYMCA伴走サポート「きみのつばさ」を拡充しました。これらを通して、まさしく、今こそポジティブネットのある社会の創造に努めました。

新プランディングの推進を目指し、2期目の中期計画を2020年度に終えるにあたり、その最終年度として評価をした上に、コロナ禍でのYMCAのプランディングとして、地域社会の希望の光となるよう3期目の中期計画の策定を進めました。これまで進めてきた働きに加えてコロナ禍で見えてきた新たな社会課題にどのように向き合うのか、中期ビジョン的な中期計画として捉えていきたいと思います。感染拡大の続く2021年度も、社会全体の混乱と同様にYMCA運動も財政的な側面で困難な状況がありますが、この中期計画を通してレジリエンス、リカバリー、リマジネーションのあるYMCAを目指していきます。

日本YMCA同盟 会長 川本 龍資  
日本YMCA同盟 総主事(代表理事) 田口 努

## Contents

02	日本YMCA中期計画2020 最終年度として
06	プランディング推進協力
07	ポジティブネット創造
08	国際青少年センター YMCA東山荘
09	学生YMCA
10	日本YMCA研究所
12	寄附・支援
16	日本YMCA同盟委員会報告
21	全国YMCA総主事会議関連報告
25	現勢 関係団体
26	日本YMCA同盟組織
27	2021年度事業方針・計画
30	日本YMCA中期計画2020 評価

# 日本YMCA 中期計画2020(2017-2020)

## 最終年度として

### 2020年度日本YMCA同盟事業報告

#### 中期計画2020聖句

神の国はからし種のようなものである。  
土に蒔くときには、地上のどんな種よりも小さいが、  
蒔くと、成長してどんな野菜よりも大きくなり、  
葉の陰に空の鳥が巣を作れるほど大きな枝を張る。  
(マルコによる福音書 4章31節－32節)

#### 日本YMCA同盟2020年度基本聖句

わたしがあなたの内にいるように、すべての人をひとつにしてください。  
(ヨハネによる福音書 17章21節)



## 1 ブランディングを推進し、ミッションを明確にする

- 1) 次のステージに向けて、ブランディングの方向性を再確認し、評価する。
- 2) 全人一貫教育の具現化としての「YMCA伴走サポート」の展開、基礎調査としてのKPI\*数値取得、プロジェクト型寄附モデル施策実施を着実に進める。
- 3) ブランド表出の最終整備の支援を行う。
- 4) ミッションを強化し、全国・各地区で実施される研修に反映する。

\*KPI=Key Performance Indicator (重要業績評価指標)

全国的な感染拡大の中、はなれていてもつながっていることをブランディングのもとに再確認し、地域社会で必要とされる働きに注力しました。特に新型コロナウイルスによる影響を受け困難の中にある人や地域における活動に対して、プロジェクト型寄附を企業や行政より募り、活動支援につなげました。「YMCA伴走サポート」の全国での導入に向けてオンラインで実施した研修には200名を超えるスタッフが参加、全人一貫教育を見る化し、子どもと人の成長に寄り添う取り組みを推進しました。

## 2 全国的な広報戦略を策定する

- 1) “ポジティブネット”のある社会の具体的なメッセージを定期的に発信する。
- 2) 子育て子育ち分野での全国協働での広報をパイロット展開する。
- 3) 広報・寄附の多様なツールを研究し、順次活用を進める。

私たち一人ひとりとその周りにいる大切な人たちのいのちを守る、「#はなれていてもつながっている」キャンペーンを展開し、多言語によるメッセージを配信しました。子どもたちの自然体験の減少によりもたらされる心と身体の育ちへの影響を懸念し、他団体との共同声明をリリースしました。同盟機能とそれはたらき、また全国のYMCA運動の理解を進めるために「ポジティブネット通信」の定期配信を行いました。またピンクシャツデー「オンライン子ども会議」は、全国に広がる子育て子育ち事業の連帯を表現する一つの方法として、今後の広報戦略に活用されます。



テクノロジーの活用により新しい「つながり」を生み出すユースたち

### 3 リーダーシップ研修の充実を図り、強化する

- 1) 全国YMCAの研修内容の体系化を進める。
- 2) 多様な採用形態に対応する研修を強化する。
- 3) 日本YMCA研究所の研究／シンクタンク機能を強化する。
- 4) 就労環境整備及び人事協力の支援を行う。

ステップII研修は集合研修とオンライン研修を組み合わせ、特にアフターコロナの社会におけるYMCAのリデザインを考え、実行に移すための学びとなることに重点をおいて実施しました。ブランディング表出最終年度として、グラムコ株式会社の協力を得て実施した表出研修には全国から200名の参加があり、社会の変革の時期にあるブランディングの「これから」をともに考え、共有しました。

### 4 YMCAマネジメントを強化し、確立する

- 1) 運営に課題のあるYMCAの対応・支援を進める。
- 2) 加盟YMCAのコンプライアンス遵守強化をサポートする。
- 3) 経営指標及び月次KPIデータの精査を行う。
- 4) 事務効率化に向けた調査と協議を進め、今後の見通しを立てる。

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、困難に直面する加盟YMCAへの支援をフェーズ化し、対応策を検討しました。個別YMCAの経営指標（経年推移）を分析し、希望するYMCAに対して中期的な財政再建とともに考え方を伴走する経営タスクによるサポートを行いました。また総務担当者会とともに新型コロナウイルスによる各種助成金活用の情報交換会や同一労働・同一賃金の制度施行に対する準備・研修を、外部リソースとも連携しながら実施しました。



第51回全国YMCAリーダー研修会 テーマを掲げるリーダーたち

## 5 日本YMCA運動を組織変革する

- 1) 日本YMCAのガバナンス構造の多角的な視点での協議を活性化する。
- 2) 各種会議体・委員会の再編成に向けての検討に着手する。  
特に、オンラインでの小委員会、タスク、プロジェクトを活性化していく。
- 3) 会員及び会則の将来的展望の協議を進める。
- 4) ブランド管理の観点からの加盟退除ガイドラインの検討を行い、文言化する。

加速度的に進んだ会議のオンライン化により、各種会議体・委員会の情報交換はスピードアップが図られました。日本YMCA同盟協議会、日本YMCA大会もオンラインにより開催され、全国YMCAの連帯への参画の機会を増やすことにつながりました。次期中期計画策定委員会も設置され、新たな道筋へ向けたアンケート調査などはテクノロジーを活用して行いました。

## 6 “ポジティブネット”実現の姿を示し、ユースエンパワーメントを推進する

- 1) ユース育成（地球市民育成、ユースボランティア、学生YMCA、中高生他）のビジョンを見出す。  
新しい取り組みにもチャレンジしていく。
- 2) キャンプ100及び日本YMCA大会、YMCAユース平和プロジェクトを通した全国YMCAとの協働と平和づくりを進める。  
(新型コロナウイルスの影響・推移を見守り、柔軟に対応する)
- 3) 世界や他団体とのネットワークを生かしたSDGs参画・グローバルネットワークブランドを強化する。
- 4) 減災・災害対策の平時機能を強化する。

ユースが中心となって開催された第51回全国リーダー研修会は実会場とオンラインの複合型で開催され、数々のアクションプランが生み出されました。世界YMCA同盟の主催するYLSS (Youth-Led Solution Summit) には都市YMCA、学生YMCAから7名が派遣され、世界のユースとの交わりから気候変動への意識を高めました。ユース平和委員会では、SNSを活用して、それぞれの場所で平和について想いを馳せ、学習したことやメッセージを折り鶴とともに写真にして共有をするプロジェクトを行いました。また、熊本豪雨災害に対して西日本エリアセーフティーセンターが中心となり、十分な健康管理を行った上で全国YMCAよりスタッフを派遣し、被災者支援活動に取り組みました。



日本のマスク不足に対し、中国のYMCAからいち早く届けられたマスク

## 7 同盟事務局機能ならびにYMCA東山荘の運営強化

- 1) 同盟事務局の再編成と今後の機能の検討に着手する。
- 2) 新しいリーダーシップのもとに次期中期計画の策定を進める。
- 3) YMCA東山荘の安定的運営に注力し、将来計画の策定に着する。
- 4) 学生YMCAを強化する。またワイズメンズクラブとの協働を推進する。
- 5) 国内外YMCAの情報共有を強化し、課題に対する取り組みを拡充する。
- 6) 主事退職金中央基金・職員年金基金の運営を強化し、将来展望の協議を行う。

同盟四谷、YMCA東山荘とともに業務の見直しを行い、合理化・効率化を目指した連携についてプロジェクト型業務により実施を始めました。YMCA東山荘は、激減した利用者数の回復に向けて営業を強化し、国の行うGoToトラベルキャンペーン導入やオンライン見学の受付、地域への施設開放などを行いました。県内・地域への働きかけにより地域のボランティアの方々と取り組む子ども食堂やフードドライブ、福祉施設職員を対象にした心身の負担を癒すリトリートプログラムの開催、小中学校でのピンクシャツデーアピールなどの活動にも積極的に取り組みました。

※日本YMCA中期計画(2017-2020)評価は、P30~33に掲載

## ブランディング推進協力

### #はなれていてもつながっている 国内の連帯を強める

すべての会議をオンラインに変更することでより頻繁に意見交換ができるようになりました。全国で「#はなれていてもつながっている」キャンペーンを展開し、オンラインによる「共同の祈り」を計5回開催しました。コロナ禍で露わになった課題に対する取り組みや当事者による心の声を分かち合い、祈り、全国YMCAの連帯を強化しました。

### 事業再開に向けて

事業再開に向けて、オンライン研修「新型コロナウイルス感染症対策とYMCAのプログラム」を開催し、100名を超える参加がありました。また、先んじて事業を再開した中国や韓国、台湾のYMCAと情報交換を行い、会館の再開所のガイドラインをまとめました。さらに日本キャンプ協会と協力し、北米YMCAとアメリカキャンプ協会が策定した「CDC（アメリカ疾病予防管理センター）ガイドンスに基づくキャンプのためのフィールドガイド」を共同翻訳し、YMCAとして監修を経て公開しました。

### 10万人の子どもたちに笑顔あふれる日常を

Amazon「みんなで応援」プログラムは、各種団体・施設が支援を希望する物資を「ほしい物リスト」としてAmazonのサイト上で公開し、プログラムの趣旨に賛同する方がそのリストから商品を購入すると、応援物資が支援先に届くという取り組みです。23のYMCAが参画し、国内外から子どもたちやユースの日常を豊かに支える贈り物が届きました。



学生たちに届いた生活支援の品（横浜YMCA）

### 子どもたちの健全な成長のために

世界的なネットワークを持つ青少年教育に関わる4団体とともに、青少年の健全な心身の成長のためには自然体験の中で育まれ、培われる他者との関わりが重要であること、そして新型コロナウイルスへの不安や恐怖が人々の心や社会にもたらす分断を防ぐ活動が必要であることを共同声明として発表しました。そして文部科学省の「子供たちの心身の健全な発達のための子供の自然体験活動推進事業」では全国21のYMCAにおいて88のプログラムを実施しました。

### プロジェクト型寄附による企業との協働

地域や世界の課題について、企業や行政と対等なパートナーシップをもち、それぞれの資源や特性を活かして課題解決を行うプロジェクト型寄附に取り組みました。エッセンシャルワーカー家庭の子どもの居場所作り、ステイホームが続き家庭に居場所をなくした女子への支援、中高生の未来の選択肢を広げるプログラミングクラスの開講、女子児童へのジェンダーへ配慮したスポーツ機会の提供など、協働を進めました。



自然に囲まれたびのびと活動するYMCAキャンプ

# ポジティブネット創造

## アジア・世界のYMCAとの連帯を強める

世界規模で起こるパンデミックによる危機とともに乗り越えようと世界YMCA同盟やアジア・太平洋YMCA同盟との連帯が加速しました。世界YMCA同盟が主催したリーダーズトークでは、いかに逆境を乗り越えるか、今後立ち現れる未来に対してYMCAが変化をしながら進んでいくための解決策や具体的な行動計画が語られました。また新型コロナウイルス感染症拡大の影響が大きく、存続の危機にあるYMCAへの復興再建基金（ソリダリティ基金）やレバノン爆発事故再建支援基金に、いち早く支援金を送金しました。

## 全国YMCAユースボランティア意識調査

日本YMCA同盟ユース委員会は新型コロナウイルス感染症影響下におけるユース世代の生活とボランティア活動についてアンケート調査を実施し、今後のユースエンパワーメントの方向性を探りました。友だちに会えない、生活リズムの乱れ、気持ちの落ち込みなど日常生活の変化への不満が強く、感染への不安よりもストレス要因となっていることが分かりました。一方、ボランティア活動への参加意欲は一定数において下がることはなく、その理由としては、「子どもの活動も制限されて、体験の機会が減っている。こんなときこそ子どもの成長に寄り添いたい」という声も聞かれました。



リーダーズトークを主催した世界YMCA同盟パトリシア・ベルトン会長とカルロス・サンヴィー総主事

## 持続可能な社会に向けて 若者の課題解決能力を發揮する場を！ **YOUTH-LED SOLUTIONS SUMMIT SERIES 2020-2022 (YLSSS)**

世界YMCA同盟は、SDGs（持続可能な開発目標）の達成に向けて「若者主導の課題解決サミット」をスタートさせました。気候変動をテーマに各国でプロジェクトチームを組織し、アクションプランづくりを行います。2020年は10月19日～23日に開催し46カ国から600名が参加、日本からは7名が参加しました。気候変動に対する危機感を持って行動を起こす世界のユースとの対話は大きな刺激となり、参加者一人ひとりの意識や行動の変化につながっています。

## 第8回日中韓YMCA平和フォーラム

新型コロナウイルス感染症の影響で2020年2月より延期となっていた第8回日中韓YMCA平和フォーラムを、2021年3月6日に日本がホスト国となりオンラインで開催しました。3カ国から92名が集い、各国の現状を共有してコロナ禍においてどのように北東アジアの平和構築に貢献できるかを話し合いました。第7回フォーラムから発足したユース平和委員会からは、「コロナ禍での平和とはどんな状態だろう」ということを考え、オンライン学習会を開き、地域での平和について学びを深めた1年間の活動報告がなされました。



気候変動に対して活動するユースたち

# 国際青少年センター YMCA 東山荘

## 年間概要

御殿場保健所や宿泊施設協会との連携、感染症対策専門家からの学びを活かし、感染症対策のための備品の設置や配置変更、また職員の健康管理に注力しました。1年を通じ東山荘利用者、職員および関係者の罹患なく過ごすことができました。宿泊利用者は4,853名と減少しましたが、日帰りの利用は5,818名と宿泊者を上回り、近隣地域との繋がりを強めることができました。これは自粛による制約のある状況の中でも東山荘の自然を利用し、活動しようという方々が積極的に来荘された結果でした。

## ネイチャープログラム

21回のキャンプを含め主催事業を数多く実施しました。社会状況を考慮し夏までは日帰りのプログラムを中心に行開きました。学校スケジュールの変更により子どもたちには短い夏休みとなりましたが、東山荘施設内を開放しブルーシートスライダーを行うなど子どもたちのみならず、保護者も自粛による閉塞感から開放され、自然の中で伸び伸びと過ごす時を提供しました。秋以降には、感染症対策を十分に施して、宿泊を伴うプログラムを実施し、555名が参加しました。



夏休み、近隣に住む子どもたちで賑う東山荘

## 地域団体との協働

- 1 御殿場ワイズメンズクラブ、日本赤十字社の協力を得て、「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう」を子ども向けてに編集し御殿場市、小山町の全小中校24校、8,896名に配布しました。また、YMCAピンクシャツデー2021キャンペーンのパンフレット、ポスターを御殿場ロータリークラブの協力を得て同地域に配布しました。
- 2 御殿場地域で被害が深刻化している「ナラ（檜）枯れ」についての講演会を地域団体と連携して開催しました。それにより御殿場市の助成金が支給され、多くの方からいただいたご寄附とあわせて、東山荘施設内のナラの木約60本を伐採しました。引き続き新たな森づくりの再生を行います。
- 3 地域との交わりが深まる中で子ども食堂への協力をを行い、そのつながりにより社会福祉協議会、近隣教会や福祉施設と協力し、生活困窮者を支援するためのフードバンクを設立しました。新たな地域支援活動を進めることになりました。

## 食堂事業者の交代

105年にわたりYMCA東山荘の食堂を運営してきた中富商事株式会社が2021年3月を最後に契約を終了することになりました。長年の働きに感謝して、感謝状が送られました。2021年度からは、新たに令和レストランシステムズ株式会社がパートナーとして参加します。



地域の協力を得て行った感染症対策についての啓発活動

# 学生YMCA

## 学生YMCA寮と学内サークルYMCA

全国10カ所にあるYMCA学生寮では約130名が共同生活を送っています。感染症対策に万全の注意を払いながら、授業やアルバイト、帰省・移動が制限される状況において、聖書研究や寮例会でつながる寮生活は学生たちのメンタルヘルスを大きく支えました。一方、学内のサークル形式で活動する学生YMCAの約300名は、オンライン会議、SNS等を活用し、出会いと学びの機会創出を継続しました。そして、そこには各地区の協働スタッフが伴走しました。

## 学生YMCAシニア（OB・OG）の活躍

学生YMCA出身牧師・奏楽者による「共同の祈り」への協力、学生YMCAの若いシニア有志によるオンライン懇談会「コロナ禍を生きるわたしたち」の5回にわたるシリーズ開催や「在日ミャンマー人と私たちと、語りつながるオンラインセッション：いまこそミャンマーを知り、連帯するために」など、積極的に展開しました。学生に留まらず、20代、30代も仕事を失う、生活スタイルが大きく変わることの不安を抱える中、つながりにおいて希望を語り合う、視野を広げる機会を必要としています。先行き不透明な時代に学生YMCAで培った問題意識や思想・信仰について、世代や地域を超えて自発的に力を発揮する学生YMCAらしい姿が見られました。

## 各地区活動と 「全国学生YMCA力キゼミナー」

北海道・東北地区のNSCF\*、関東地区の冬のオリエンテーション、関西地区のSCM\*現場研修、九州地区の夏季学校といった定例の活動は全てオンラインで実施されました。また、関東地区では持ち回りで各YMCAが会場となり聖書研究会を実施していましたが、こちらもオンライン化して実施を継続しました。

2020年度開始早々延期が決まった夏季ゼミナーは2021年2月27日～28日、「力キゼミナー」としてオンラインで行いました。2020年を振り返りながら、「コロナ禍を生きるわたしたちの未来」と題して、激動と不確実の現在をどのように生き、未来を描くのか話し合いました。また、学生YMCA出身の柳本伸良牧師（日本キリスト教団華陽教会）の礼拝にオンラインで出席したり、各YMCAを結んだ交流会なども行われました。

\*NSCFとは「North East Student Christian Federation」の略

\*SCMとは「Student Christian Movement」の略



2020年自粛の夏、オープンエアな環境で開放感を感じるひと時



あらゆる行事がオンライン化した1年  
九州地区夏季学校での記念写真

# 日本YMCA研究所

## 研修

### 日本YMCAスタッフ研修ステップII

期 間：2020年10月1日～11月28日（59日間）  
 場 所：YMCA東山荘／在日本韓国YMCA／オンライン  
 研究生：11YMCAより12名

櫻井大樹（茨城）	江尻明子（東京）
古市健（東京）	吉永貴弘（横浜）
中田純子（山梨）	遠藤恵美子（名古屋）
上地信親（奈良）	猪口武志（大阪）
平岡正春（広島）	山田真二（熊本）
新内博之（鹿児島）	杉野歌子（同盟）

テーマ：コロナ禍・コロナ後のYMCAのリデザインを目指して

主なカリキュラム：人間関係トレーニング、YMCAブランドとミッション、キリスト教概説、コロナ後の社会とキリスト教、YMCAの現状と課題、アジアYMCAの現状と課題、YMCAとジェンダー理解、コロナ後の持続可能な社会の在り方を考える—再生エネルギーの活用—、インターネットネイティブな子どもたちの学びの可能性、災害時のYMCAの働き

### 日本YMCAスタッフ研修ステップIII

期 間：2021年1月19日～23日（5日間）  
 場 所：オンライン  
 研修生：5YMCAより5名

加藤雄一（仙台）	大澤篤人（茨城）
上村香野子（富山）	林健太郎（大阪）
岩井義矢（神戸）	

主なカリキュラム：日本YMCAのブランディングとミッション、説教演習・事業開発・推進力の養成、ヒューマンマネジメント力の養成

### 2020年度YMCAブランド表出特別研修

YMCAブランドの「これまで」と「これから」  
 日 時：2020年10月9日 9:10～12:00  
 場 所：オンライン  
 講 師：グラムコ株式会社 下間彩子氏  
 YMCAリブランディングに携わった専門家の方々  
 参加登録者数：202名



2020年度ステップII修了生



ステップIIでの学びをプレゼンテーションする研究生

**2020年度研究所オンライン研修**

テーマ：「新型コロナウイルス感染症対策とYMCAのプログラム」

第1回＜基礎知識編＞「子ども」と新型コロナウイルス感染症対策①—必要な知識と大人の心構え—

日 時：2020年6月19日 13:00～14:00

講 師：岩室紳也氏

参加登録者数：100名

第2回＜実践事例編＞「子ども」と新型コロナウイルス感染症対策②—実践例からの学び—

日 時：2020年6月25日 13:00～14:00

講 師：岩室紳也氏

参加登録者数：102名

第3回＜実践事例編＞「子ども」と新型コロナウイルス感染症対策③—野外活動や宿泊をともなうキャンプでの対応—

日 時：2020年7月8日 13:00～14:00

講 師：岩室紳也氏

参加登録者数：91名

第4回＜実践事例編＞災害時における新型コロナウイルス感染症対策

日 時：2020年7月22日 13:00～14:00

講 師：尾島俊之氏

参加登録者数：47名

第5回＜冬季編＞冬季プログラム等での新型コロナウイルス感染症対策—室内での環境を整える—

日 時：2020年12月10日 13:00～14:00

講 師：岩室紳也氏

参加登録者数：119名

**主事資格**

2020年6月1日付認定者・論文テーマ

阿部 正伴（横浜YMCA）

YMCAとSDGs—横浜YMCAと学童クラブにおけるSDGsの達成に向けた取り組み—

石川 晴美（横浜YMCA）

「YMCA専門学校ならではの価値」とは—ユースがエンパワメントされる活動事例からの考察—

万福寺 昭美（名古屋YMCA）

YMCAにおける人的資源に関する一考察

中井 信幸（名古屋YMCA）

社会の課題に取り組むYMCAキャンプ—すべての子どもたちに自然体験を—

山田 浩介（神戸YMCA）

幼児期を基盤とした多世代アプローチ—須磨・高倉台地域における実践と展望—

間 勝也（神戸YMCA）

多様な性と向き合っていくYMCA

## 寄附・支援

### ポジティブネットYMCA国際協力募金

子どもとユースが、差別や争いのない社会で生き、自分や周りの人を大切に思う気持ちを育めるようにとの願いを込め、各地で工夫を凝らしながら街頭募金やバザーなどを通して募金活動を実施しました。募金リーフレットにはコロナ禍での各国の活動を紹介し、離れていても困難な時こそ連帯するYMCAのつながりを実感する機会としました。募金は国内外での活動に活かされました。

		(円)
収 入		
前年度繰越		949,640
2019年度国際協力募金		5,640,779
2020年度ツール分担金		68,486
<b>収入合計</b>		<b>6,658,905</b>
支 出		
難民支援(テサロニキ・パレスチナ)	1,200,000	
青少年育成・貧困者支援(アジア地域のYMCAを通して)	788,700	
多文化共生のための支援	49,570	
啓発・広報事業(リーフレット、パネル他作成)	1,779,139	
事務費(送金手数料等)	11,270	
<b>支出合計</b>		<b>3,828,679</b>
<b>次期繰越</b>		<b>2,830,226</b>

\*上記は日本YMCA同盟を通した支援活動の収支報告です。

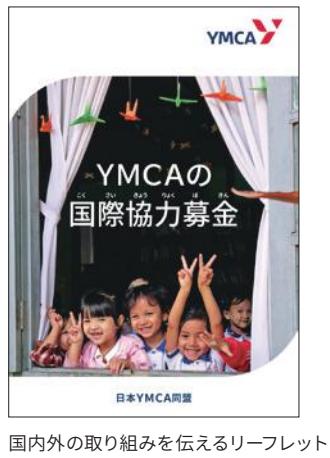
\*全国のYMCAには総額45,583,005円が寄せられ、地域で役立てられています。

上記の他、国際協力資金より「世界YMCA連帯基金」に1万ドルを送金しました。

### 海外被災地等支援

現在も抑圧を受けるパレスチナで行われている「オリーブの木キャンペーン」(オリーブの栽培によってパレスチナの人びとの生活を支える)と、難民支援のために寄せられた寄附を送金しました。また2015年の地震で被害を受け、以来支援を継続してきたネパールへは学校設備補修工事費用を支援しました。

		(円)
収 入		
前年度繰越		3,088,339
募金収入		540,030
<b>収入合計</b>		<b>3,628,369</b>
支 出		
パレスチナ難民支援		9,000
オリーブの木キャンペーン		36,000
ネパール震災被災地支援(学校設備)		859,500
<b>支出合計</b>		<b>904,500</b>
<b>次期繰越</b>		<b>2,723,869</b>
(内訳)		
フィリピン台風被災地支援		428,852
ネパール地震被災地支援		651,002
ネパール地震被災地支援(神戸社会福祉協議会より)		1,122,985
ミャンマー支援募金		353,030
パレスチナ難民支援・オリーブの木キャンペーン		168,000



### YMCAポジティブネット募金

「誰もが公平に夢をかなえるチャンスのある地域社会の創造を」をスローガンに、新型コロナウイルスの影響を受け困難の中にいる子どもやユースへの支援協力を呼びかけました。各地のYMCAを通して「留学生・困窮青少年生活・学習支援」「暴力下にある女性のための一次避難の提供」「地域NPOと連携したひとり親・困窮家庭支援」等さまざまな活動が行われ、個人、公的機関、企業等から地域に密着した支援ができる団体として、期待とともに支援が寄せられました。

1. 全国各地のYMCAに届けられた一般寄附金 4千万円
  2. 公的機関、企業等からの寄附金 9千万円  
(プロジェクト型寄附等)
  3. 企業等からの食品、物品提供等 7千万円
- 合計2億円**  
(2020年12月現在)



### 東日本大震災支援事業 2011.3.11発災

東日本大震災被災地で今も活動を続けるNPO／NGO団体の支援従事者を対象に、日本NPOセンターとの共同で19回目となるリフレッシュプログラムを岩手県安比高原にて実施しました。実施には米国北カリフォルニア日本文化コミュニティーセンターからの支援を用い、9名の参加者に向けて臨床心理士によるカウンセリングと安比高原の自然の中でのリフレッシュの機会を提供しました。発災から10年、今なお復興途上にある被災地を想い、全国のYMCAでは継続した支援活動を行い、さらに防災への意識を高め、備えを見直す年となりました。

(円)

収 入	
前年度繰越	8,182,359
募金収入	21,431
受取利息	356
収入合計	8,204,146
支 出	
JCCNCリフレッシュキャンプ	775,731
Voice from 3.11実行委員会	100,000
支出合計	875,731
次期繰越	7,328,415

### 台風15号・19号緊急支援事業 2019.9-10発災

発災当時、台風15号は千葉県を直撃し、断水や停電は長期に亘り被災者の体力を奪っていました。また台風19号は静岡県や関東地方、甲信越地方、東北地方など広域で記録的大雨となり甚大な被害を及ぼしました。現在もその爪痕は残っています。被災された方々への支援とともに災害の経験や教訓が今後、効果的に活かされるよう被災地と全国をつなぐ役割を果たしていきます。

		(円)
収 入		
前年度繰越		9,076,684
募金収入		8,291,590
収入合計		<b>17,368,274</b>
<hr/>		
支 出		0
<hr/>		<b>17,368,274</b>

\*上記は日本YMCA同盟を通じた支援活動の収支報告です。

\*全国のYMCAには総額25,110,789円が寄せられ、地域で役立てられています。

## YMCAユースファンド

全国のYMCAより応募のあった「全国YMCAユースチャレンジ」は、YMCAに所属する18歳から35歳のユースが自分たちの考えた企画に対し、助成および企画運営のためのアドバイスなどのサポートを提供する次世代型のユース育成事業です。2020年度採択された8企画に助成を実施し、企画運営の過程で貴重な学びや気づきを得る機会を提供することができました。全国で実施されているユース育成プログラムには、茨城、松山の2YMCAに対して指定寄附がありました。

(円)	
収 入	
前年度繰越	4,205,986
募金収入	408,000
利息収入	17
<b>収入合計</b>	<b>4,614,003</b>
支 出	
ユース育成(各Yその他)	837,054
運営費	12,400
<b>支出合計</b>	<b>849,454</b>
<b>次期繰越</b>	<b>3,764,549</b>



ユースチャレンジによってスタートした「トライスタディルーム」で  
学習する高校生(とちぎYMCA)

## 国際賛助室

毎年開催している障がい児プログラム支援のためのYMCAインターナショナル・チャリティーランは、2020年度13カ所で開催され約3,300人が参加しました。イタリア大使公邸にてチャリティーコンサートの模様を動画収録、Web上で公開し、医療従事者への感謝を表しました。ハンガリー大使館主催の異文化交流会にYMCAからメンバーが参加、異文化に触れながら楽しい時を過ごしました。

(円)	
収 入	
前年度繰越	14,008,982
寄附金収入	8,050,165
インターナショナル・チャリティーラン2020	4,287,994
バザー収益他	2,231,577
助成金	667,000
<b>収入合計</b>	<b>29,245,718</b>
支 出	
全国YMCA障がい児プログラムへ	12,224,540
インターナショナル・チャリティーラン経費	4,347,610
イベント経費	94,319
その他経費	32,900
事務手数料として	1,468,450
<b>支出合計</b>	<b>18,167,819</b>
<b>次期繰越</b>	<b>11,077,899</b>



全国で唯一リアルに開催した名古屋YMCAチャリティーラン

## ワイズメンズクラブ国際協会

国際的社会奉仕団体であるワイズメンズクラブはYMCAとともに歩みを続けています。東日本区・西日本区を合わせて140クラブ、約2,300名が各地域における社会課題に対して活動し、困難の時代にあっても、つながりを大切にしながら新しいクラブの創設や様々な工夫、チャレンジを継続されています。今後もYMCAのパートナーとして歩みが止むことはありません。2020年度、新型コロナウイルスの影響の中、YMCA子ども・ユース・地域支援、ポジティブネット募金や、7月に熊本県を中心に発生した集中豪雨災害支援活動、全国YMCAの各イベントや研修会に多大なご協力をいただきました。心より感謝申し上げます。

		(円)
収 入		
ワイズメンズクラブ国際協会 東日本区	1,000,000	
ワイズメンズクラブ国際協会 西日本区	1,000,000	
<b>収入合計</b>	<b>2,000,000</b>	
支 出		
第51回全国YMCAリーダー研修会	400,000	
キャンプ100記念シンポジウム2020	400,000	
第21回日本YMCA大会	600,000	
YMCA大会イベント(ユースアクション)	300,000	
学生YMCA冬期ゼミナール及び日韓学生交流会	300,000	
<b>支出合計</b>	<b>2,000,000</b>	

## 日本宝くじ協会

一般財団法人日本宝くじ協会から総額550万円の助成を受け、集会用テントを27YMCAに40張、宿泊用テントを11YMCAに18張、合計58張が新たに全国のYMCAに配備されました。プログラムや行事が中止、変更される1年でしたが、1万人を越える会員、地域の方々のプログラムで活用され、自粛の閉塞感から開放される機会を提供しました。

		(円)
収 入		
助成金収入(本体事業費)		5,000,000
助成金収入(消費税分)		500,000
自己財源収入		576,400
<b>収入合計</b>		<b>6,076,400</b>
支 出		
集会用テント 40張		3,940,000
宿泊用テント 18張		1,584,000
消費税		552,400
<b>支出合計</b>		<b>6,076,400</b>



マスク不足の中、ワイズメンズクラブからYMCAに贈られた手作りの“つながりマスク”(横浜YMCA)



乳幼児から高齢者まで参加した「地域ふれあい運動会」で活用されたテント(神戸YMCA)

# 日本YMCA同盟委員会報告

委員任期：2020年7月～2022年6月 ◎は長を示します

## 1. 理事会・評議員会・常議員会・協議会

### 法人理事会

主な議題：

#### ▼第345回（2020年5月1日）オンライン会議

##### 日本YMCA同盟修正予算の件 ほか

新型コロナウイルスによる社会的影響が濃くなる中、国内外のYMCAの状況報告を行い日本のYMCA諸事業への影響の見通しについて協議されました。

#### ▼第346回（2020年5月16日）オンライン会議

##### 2019年度日本YMCA同盟事業報告の件 ほか

2019年度日本YMCA同盟事業報告について説明がされ、同盟役員の候補者を決議しました。また新型コロナウイルスの影響を受けているYMCA東山荘の運営について方向性が確認されました。

#### ▼第347回（2020年6月20日）オンライン会議

##### 日本YMCA同盟次期各委員会設置の件 ほか

2020年6月に任期満了となる次期各委員会の設置並びに委員委嘱について協議し承認されました。

#### ▼第348回（2020年8月1日）オンライン会議

##### 日本YMCA同盟修正予算の件 ほか

新型コロナウイルスによる国内外のYMCAの状況報告と修正予算について話し合われ、加盟YMCAへの支援について協議されました。

#### ▼第349回（2020年9月26日）オンライン会議

##### 日本YMCA同盟第二次修正予算および四半期財務報告の件 ほか

新型コロナウイルスによる影響が大きく第二次修正予算について協議されました。オンラインで実施する日本YMCA大会にあわせて、表彰委員会の設置を決定しました。

#### ▼第350回（2020年10月17日）オンライン会議

##### 日本YMCA次期中期計画関連の件 ほか

日本YMCA次期中期計画の進め方について協議されました。同盟表彰の候補者について表彰委員会からの答申があり2020年度表彰者が決定しました。

#### ▼第351回（2020年12月12日）オンライン会議

##### YMCA東山荘中富食堂契約終了の申し出とその対応について ほか

YMCA東山荘食堂の委託契約先である中富食堂より、2021年3月末で契約終了の申し出の報告とその対応につ

いて協議されました。

#### ▼第352回（2021年1月23日）オンライン会議

##### 2021年度日本YMCA同盟事業方針・計画骨子の件 ほか

日本YMCA次期中期計画および2021年度日本YMCA同盟事業方針・計画の骨子についての協議、およびYMCA東山荘の中富食堂契約終了の申し出について報告があり、今後の対応について協議されました。

#### ▼第353回（2021年3月6日）オンライン会議

##### 2021年度日本YMCA同盟予算案の件 ほか

日本YMCA中期計画の件と、2021年度日本YMCA同盟事業方針・計画、予算について協議されました。

#### ▼第354回（2021年3月20日）オンライン会議

##### 日本YMCA次期中期計画の件 ほか

日本YMCA次期中期計画についての協議と2021年度日本YMCA同盟事業方針・計画、予算について決議されました。

##### 理事（7名）

水田秀子、仲井間健太、中道基夫、塩澤達俊、田口努（代表理事）、横山由利亜（執行理事）、山根一毅（執行理事）

##### 監事（2名）

平野昭宏、齋藤宙也

### 法人評議員会

主な議題：

#### ▼第25回通常評議員会（2020年6月20日）オンライン会議

##### 次期各委員会設置並びに委員の件 ほか

2019年度日本YMCA同盟事業報告と決算報告がなされ、次期会長・次期副会長の選任について決議され、次期役員が承認されました。

#### ▼第26回評議員会（2021年3月20日）オンライン会議

##### 日本YMCA次期中期計画の件 ほか

日本YMCA次期中期計画についての協議と2021年度日本YMCA同盟事業方針・計画、予算について決議されました。

##### 評議員（13名）

◎川本龍資、竹佐古真希、井上真二、青山鉄兵、

利根川恵子、上田晶平、田中博之、岩坂二規、  
山本知恵、廣瀬頼子、山本俊正、奇恵英、藤本義隆

## 同盟常議員会

主な議題：

### ▼第368回（2020年5月16日）オンライン会議

#### 2019年度日本YMCA同盟事業報告の件 ほか

前年度の事業報告および決算報告が行われ、新型コロナウイルスの影響で初めてのオンライン開催となる同盟協議会について意見聴取と協議が行われました。

### ▼第369回（2020年6月20日）オンライン会議

#### 第9回日本YMCA同盟協議会の件 ほか

同盟協議会の電磁的に書面評決された結果について報告され代議員の交代変更について承認されました。

### ▼第370回（2020年8月12日）電磁的書面評決

#### 熱海YMCA名称変更の件

NPO法人熱海YMCAより、静岡YMCAへの名称変更の希望があり、加盟退除・組織検討委員会の審議を経たことが報告され、実態に即した名称変更であるとされ、承認されました。

### ▼第371回（2020年10月17日）オンライン会議

#### 日本YMCA同盟第二次修正予算および四半期財務報告の件 ほか

日本YMCA次期中期計画の進め方について協議されました。第21回日本YMCA大会の開催方法についてオンラインで2月に実施することが決議されました。

### ▼第372回（2021年1月23日）オンライン会議

#### 2021年度日本YMCA同盟事業方針・計画骨子の件 ほか

日本YMCA次期中期計画および2021年度日本YMCA同盟事業方針・計画の骨子についての協議、およびYMCA東山荘の中富食堂契約終了の申し出について報告があり、今後の対応について協議されました。

### ▼第373回（2021年3月20日）オンライン会議

#### 2021年度日本YMCA同盟事業方針・計画の件 ほか

日本YMCA次期中期計画についての協議と2021年度日本YMCA同盟事業方針・計画、予算、および2021年度の新しい日本YMCA同盟組織体制について説明があり決議

されました。

## 常議員（23名）

◎川本龍資、竹佐古真希、井上真二、青山鉄兵、水田秀子、仲井間健太、中道基夫、利根川恵子、上田晶平、田中博之、岩坂二規、山本知恵、廣瀬頼子、山本俊正、奇恵英、藤本義隆、村田堅太郎、岡戸良子、廣田康人、杉田孝、塩澤達俊、太田直宏、田口努

## 同盟協議会

### ▼2020年6月20日 電磁的評決およびオンライン会議

**第1号議案** 2019年度日本YMCA同盟事業報告の件  
2019年度決算報告の件（退職金中央基金・職員年金・職員互助会報告含む）

**第2号議案** 2020年度日本YMCA同盟事業方針・計画の件、2020年度予算の件

**第3号議案** 日本YMCA同盟常議員選出の件、会長・副会長選出の件

\*以上の議案は事前に書面による評決を受けたものです。

## 報告・紹介

現状報告：全国YMCA運営状況

新旧常議員紹介と感謝

## 主事認定授与式

グループディスカッション「これからのYMCAの姿」

キーノート：山田公平氏（前アジア・太平洋YMCA同盟総主事）「いまがチャンス」／大森佐和氏（国際基督教大学上級准教授）「ポストコロナ時代に次世代リーダーを育む」

## 派遣の礼拝

司式：山本俊正氏

メッセージ：片柳弘史司祭（カトリック宇部教会司祭）  
「不安の時代をどう生きるか、希望の源はどこに」

## 2. 運営委員会

### YMCA東山荘運営委員会

開催日：2020年10月10日、2021年2月20日

利用者が減少した中でのYMCA東山荘のあり方について協議しました。半期毎の活動報告を通してYMCA東山荘の使命を再確認し、未来に向かってなすべきことを話し合いました。YMCA東山荘が多くの人々の“心のふるさと”であり続けるために各委員が様々な角度から意見を交換しました。緊急事態宣言が発令され人々の移動が難しい中でも、地域の方々を対象として活動を進めたことが評価されました。

委員（5名）

◎村田堅太郎、野々垣健五、田原績、伊藤幾夫、

筒井佳代子

### 退職金中央基金・職員年金基金運営委員会

開催日：2020年5月13日、9月17日、2021年1月13日、3月12日

全国のYMCAの退職金制度を維持し、退職職員への年金の安定支給のため資金運用状況の確認、制度の検討を行ってきました。退職金基金は2020年度より新規加入拡大のための規程改定が施行されました。また、2021年度より旧サーバーシステムをクラウド化する予定です。

委員（6名）

◎田中博之、高田一彦、上田晶平、浜野昌保、堀尾仁、  
田口努

### 退職金中央基金・職員年金資金運用委員会（5名）

◎田中博之、徳久俊彦、勝田正佳、久保田貞視、齋藤金義

## 3. 常置委員会

### 学生部委員会

開催日：2020年7月4日

全国学生YMCAの状況を共有し、学生YMCA寮の感染症対策支援、大学による部活動制限の影響を受けるサークル形式の学生YMCA支援、夏期ゼミナールの実施形態の変更について協議しました。学生YMCAシニアによるオンライン懇談会の開催、学生YMCA出身牧師・奏楽者による「共同の祈り」への協力等があり、今後も先行き不透明な時代に学生YMCAで培った問題意識や思想・信仰をもとに力を発揮していくことが確認されました。

委員（5名）

◎竹佐古真希、板野靖雄、秋葉聰志、中島敬之、

村瀬義史

### 国内協力委員会

開催日：2020年12月11日、2021年3月19日（電磁委員会）

2019年度末に実施した新型コロナウイルス感染拡大緊急振興資金貸付、8YMCA（計60,733,400円）と、その後の状況や課題などを共有しコンサルテーション、人事協力等を実施しました。また、オンラインによる委員会の開催を進め、2020年度は4YMCAからの振興資金返済計画変更と1YMCAからの新規貸付（5,000,000円）を行いました。

委員（6名）

◎利根川恵子、川本龍資、廣田康人、菅谷淳、井上真二、  
岡成也

**国際協力委員会**

開催日：2020年4月28日（臨時）、9月23日、2021年3月15日

新型コロナウイルスによる世界規模でのYMCAへの影響について、アジア・太平洋YMCA同盟、世界YMCA同盟からの情報を得て、緊急支援資金の送金（1万ドル）をいち早く決定しました。世界YMCA同盟が主催するオンラインを活用した「リーダーズトーク」「パダレ」「環境をテーマとしたユース・レッド・ソリューション」等に参画。中国、韓国からはウェルネス事業の再開ガイドライン、アメリカからはキャンプにおける感染対策マニュアルの提供を受け、日本語に翻訳し活用しました。レバノンでの火災事故、東ティモールでの豪雨災害についても支援を決定、特にミャンマーでの政変（クーデター）についてはいち早く「祈りの会」に参画するほか、全国に呼び掛けて募金活動を開きました。

**委員（5名）**

◎岡戸良子、長尾ひろみ、太田直宏、神保勝己、松田道子

**加盟退除・組織検討委員会**

開催日：2020年7月30日、2021年1月12日

公益法人移行後の加盟YMCA会則整備（会員組織・任意団体・キリスト者条項の整備）を目指して、提出された会則改定案の点検と承認を行いました。2020年度は、「NPO法人熱海YMCA」より「NPO法人静岡YMCA」に名称変更の承認及び広島YMCAの会則変更の承認を行いました。

**委員（4名）**

◎塩澤達俊、笈川光郎、古田和彦、小川健一郎

**研究所委員会**

開催日：2020年5月23日、12月15日、2021年2月10日

中期計画③「リーダーシップ研修の充実を図り、強化する」目的に沿って、次世代の日本YMCA運動の、特にスタッフのリーダーシップ像を明らかにすることを踏まえ、2020年度は変化し続ける社会状況に即した主事研修のカリキュラムと、オンラインなど新たなツールを用いた研修の実施形態の検討、社会に発信できるような成果物としての論文やレポートの質を高めていくことを中心に協議を重ねました。

**委員（5名）**

◎山本俊正、秋元みどり、廣田光司、田附和久、  
山佐亜津子

**4. 特別委員会****主事資格認定委員会**

開催日：2020年5月8日

日本YMCA主事資格の認定を行うための口頭試問と認定委員会を開催しました。

**委員（5名）**

◎廣田光司、秋葉聰志、加藤俊明、鍛治田千文、太田直宏

**主事論文審査委員（10名）**

松岡信之、原田宗彦、青山鉄兵、湯本浩之、上條直美、  
濱塚有史、露木淳司、上村香野子、板崎叔子、久保誠治

## 5. 定例委員会

### ユース委員会

開催日：2020年8月20日、9月7日、11月11日

ユースへの助成金事業として「全国YMCAユースチャレンジ」を全国で1次、2次の募集を行い、審査を経て7YMCA8事業に対して総額544,600円の助成を実施しました。また、新型コロナウイルスの影響を大きく受けるYMCAに関わるユースの現状を知り、YMCAの諸活動へ活かすとともに、若者を取り巻く現状について社会へ発信していくことを目的に、「全国YMCAユースボランティア意識調査」を行い、552名の協力を得て、報告書にまとめました。

#### 委員（5名）

◎藤本義隆、廣瀬頼子、仲井間健太、荒井浩元、

濱塚有史

### ジェンダー委員会

開催日：2021年2月25日

アジア・太平洋YMCA同盟ジェンダー委員会の取り組み、国内における新型コロナウイルスの影響によるドメスティックバイオレンスや女性の貧困化、メンタルヘルスなど課題を共有しました。今後、本委員会のメンバーを拡大しながら活発な意見交換を行っていくことを確認しました。社会協働事業として、NIKE、ローレウス・スポーツ・フォー・グッド財団と女性とスポーツをテーマとしたプロジェクトも始動しました。

#### 委員（2名）

◎岡戸良子、鍛治田千文

### ミッション委員会

開催日：2020年4月10日、4月24日、5月8日、5月22日、6月12日

「YMCA共同の祈り」をオンラインで実施し、安全のために“はなれていても つながっている”のメッセージを礼拝と国内外の活動動画紹介の形式で行いました。

#### 第1回 4月10日「心をひとつに、思いをひとつに」

中道基夫牧師

#### 第2回 4月24日「子どもをめぐる現場から」

中道基夫牧師

#### 第3回 5月 8日「ユースの声を聴く」

有住航牧師

#### 第4回 5月22日「世界のYMCA、そして女性」

石井智恵美牧師

#### 第5回 6月12日「会員・ワイズメンズクラブと共に」

澁谷弘祐牧師

奏楽は全回を通して竹佐古真希

アジア・太平洋YMCA同盟、世界YMCA同盟からもメッセージが寄せられ、全5回を通して、総勢700名を超える参加があり、祈りを合わせました。

#### 委員（3名）

◎中道基夫、澤村雅史、横山由利亞

# 全国YMCA総主事会議関連報告

## 全国YMCA総主事会議

会長：井上真二 副会長：塩澤達敏、殿納隆義  
開催日：2020年4月13日、4月27日、5月27日、7月3日、  
10月22日、11月26日、2021年2月16日～17日

すべてオンラインによる開催として、直面する課題に取り組む道筋を明確にするために規模別・地区別の情報交換会も活発に行い、困難のとき「#はなれていてもつながっている」ことを実感する1年となりました。経営指標に基づき、困難にあるYMCAとともに中期財政再建計画を策定する経営タスクや、増加する行政等からの事業委託や指定管理などの取得に向けて、そのノウハウや経験値を集めし共有する公益協働事業タスクなど、課題に対してオールジャパンYMCAとして取り組むはたらきを強めました。日本YMCA中期計画の策定に向けては、社会の変化の中、with/afterコロナを見据え、社会を創造することを目指し、重点事項に対して協議を重ねました。

## 全国YMCA戦略会議

開催日：2020年4月21日、5月1日、6月1日、9月30日、11月13日、2021年2月10日、3月18日

6大規模YMCA及び2中小規模YMCAから構成される戦略会議では、オールジャパンYMCAの計画である日本YMCA中期計画の取組みを牽引しました。新型コロナウィルスによる影響により、困難な状況となったYMCA支援に対する分析と具体的対策に特化し、資金調達の仕組みづくりを行いました。オンラインによる大人数の会議体を活性化させるべく、戦略会議とともに地区別総主事会議の役割を強化することにも努めました。長期化するこの困難に向き合いつつ連帯を強め、存在意義を問う1年となりました。

## 全国担当者会

### ■子育て子育ち事業推進会議（事業領域1）

強化責任者兼会長：菅谷淳  
副会長：山中奈子、小澤昌甲

### 教育・保育事業部会

部長：井上孝一 担当総主事：中村隆

### アフタースクール事業部会

部長：池長星 担当総主事：宮田康男

### 発達支援事業部会

部長：太田聰 担当総主事：小谷全人

これまでのチャイルドケア担当者会（教育・保育、アフタースクール）と発達支援事業担当者会の力を結集し、子どもの成長・発達を支援する事業部として、子育て子育ち事業推進会議が再編成されました。YMCAは、子どもと家庭に寄り添い、子育てと子育ちを包括的に応援していきます。特に2020年度、YMCAスタッフは社会的責任を果たすべく感染拡大の最中も子どもたちの受入れを続け、エッセンシャルワーカー家庭への支援、子どもへの教育など社会で求められる役割を果たしました。

教育・保育事業は、全国70拠点に約6,500名が在籍しています。緊急事態宣言発令時においても運営された幼稚園、保育園、認定こども園での、様々な事例からの学びや園行事開催の是非、感染症予防の工夫について頻回に意見交換を行いました。また、1月には管理職を対象とした研修会を開催し、全国スタッフのつながりを強化し、子どもへの教育、家庭への支援を継続しました。

アフタースクール事業は、全国の62拠点にて約6,000名が在籍しています。2020年度の重点課題として、「コロナ禍での各YMCAの状況把握と情報交換の場の継続的な提供」「YMCA伴走サポートの全国への浸透と導入の促進」「主任・責任者クラスの職員に対する研修」をあげ、タスクチームを編成して取り組みました。特にYMCA伴走サポート「きみのつばさ」の導入促進のために実施した研修には、多くの事業部から約290名の参加があり、13YMCAで導入が進められました。

発達支援事業は、全国19YMCAで児童発達支援事業と放課後等デイサービスを中心に多彩なプログラムを展開し、約1,000名が在籍しています。7月には全国にさきがけオンラインの担当者会を開催しました。基調講演にNPO法人抱樸より奥田知志氏を招き、全国から90名のスタッフが参加しました。格差が広がる社会の中で、発達障がいのある若者、子どもに寄り添うスタッフにとって大切な福祉マインドについて学びました。例年中心となって取り

組みを進めるピンクシャツデーは、コロナ禍での不安や恐怖が生み出す差別や偏見も視野に入れたキャンペーン活動を提案し、全国のYMCAで多くの会員・企業・団体等を巻き込み展開しました。

### ■学校事業部門(事業領域2)

強化責任者：岡成也

会長：小幡貴裕 副会長：田附和久

#### 日本語事業部会

担当総主事：福山武志

#### 専門学校部会

担当総主事：岡成也

経営の安定、また特に留学生に対する支援を長く深く行うことを目標として、専門学校、日本語教育の担当者会は学校事業部門として再編成されました。世界的な危機の中で迎えた新学期より、オンライン授業や感染対策など情報の共有を図り、学生の安全と学びの機会を提供するために知恵と工夫を結集させました。

日本語事業は、全国12のYMCAにある17校で、約1,600名の留学生が日本語を学んでいます。入国制限緩和後の対応や、国別に学生募集を考える会などオンラインにより全国の担当者が情報交換する機会が増え、さらに台湾のYMCAとの共同学生募集もオンラインにより実現しました。また留学生はもちろん、地域で暮らす外国人や母国にいる人にも学びの機会を提供しつつ、YMCAとつながる機会の創出を目指しました。

専門学校は、全国12のYMCAに医療、福祉、保育、スポーツ、ホテル、製菓、語学、ビジネス、建築分野の学校があり、約2,300名の学生が在籍しています。7月、8月、12月の担当者会のほか分野別分科会を行い、YMCAブランドの統一感を図りつつ募集力の向上や現状の課題についてともに考える機会をもちました。全国のスケールを活かした協働広報も継続し、オールジャパンYMCA専門学校としての学生募集に取り組みました。

### ■高齢者部門(事業領域3)

強化責任者：塩澤達俊

部長：瀬谷智明

高齢者部門は、全国7YMCAで特別養護老人ホーム、通所介護施設等を運営し、高齢者とその家族が、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるよう、多様なニーズに合わせて福祉サービスを提供しています。各施設では、入居者・サービス利用者の健康といのちを守るために、感染症に対する万全の対策をとり、スタッフ自らの健康にも十分に注意を重ね運営を続けました。年を重ねても健やかな社会生活を送り続けることができようフレイル（虚弱）予防の取り組みも、ウェルネス事業と連携し進めています。

3月に担当者会を開催し、今後も定期的に情報共有、意見交換の機会を持つことが確認されました。

### ■ウェルネス事業部門

会長：宇埜充洋 担当総主事：小川健一郎、大塚永幸

ウェルネス事業は、アクアティック、ジムナスティック、サッカー、野外、野外施設、バスケットボールの事業部で構成され、全国27YMCAに約33,000名の会員が在籍しています。春、大都市圏を中心に緊急事態宣言が発令され多くの事業は停止を余儀なくされました。そこで、自粛により制約を受けている子どもたちや家族の体力の維持や健康生活を応援するために、150本以上（約4万回再生）の家庭でできるトレーニングやレクリエーション等の動画配信を行いました。6月には「ウェルネス事業再開に向けた新型コロナウイルスへの対応についてのガイドライン」を作成し、感染予防のための多くの工夫を凝らして事業を再開しました。文科省「子供たちの心身の健全な発達のための子供の自然体験活動推進事業」の委託を受け、全国21YMCAにて88の自然体験活動を実施、また、第44回全国YMCA少年少女水泳大会は初めてオンラインで開催し全国から434名が参加しました。社会状況が不安定の中で事業の中止や延期を繰り返しながらも、子どもたちを取り巻く環境に生じている閉塞感を打破し、健やかな成長を願って各プログラムを実施しました。財政面では持続可能なYMCAウェルネス事業のための経営分析を行い、

今後のYMCAウェルネス事業の方向性について一考を投じました。

## ■マネジメント部門

### 総務担当者会

会長：山添仰 担当総主事：秋葉聰志、佐竹博

### ICT担当者会

会長：加藤雄一 担当総主事：村上祐介

ICTが組織の力を強めるためのツールとしてますます活用されるようになり、ICTと経営はより密接になりました。総務とICTの両担当者会をマネジメント部門として再編成し、課題解決の力とスピードを高めています。

総務担当者会では、新型コロナウイルスの影響により2019年度開催できなかった西日本区ハラスマント研修会を開催しました。オンラインでの開催により西日本に限らず全国から多くの参加がありました。また、「同一労働・同一賃金」の研修会を行い、ガイドラインを作成しました。定例で担当者会を行い、助成金申請など情報交換を行いました。

全国YMCA総務担当者会意見交換会を5月より全6回、総務担当者会研修会は、「雇用調整助成金の学び」「雇用調整助成金等についての社会保険労務士からの学び」「ハラスマント研修会」「休眠預金の事例の学び」「同一労働・同一賃金についての学び」と各々のテーマで実施しました。また、2回の全国YMCA総務担当者会を実施しました。

ICT担当者会は、10月5日にオンラインで開催され全国から22名が出席しました。ネット受付システム（e-YMCA）に関する今後の改修や分担金残額状況について情報を共有し、また一年に一度のICT全国担当者の研修機会として、主に役員会メンバーが講師となりG Suiteの有効な活用方法やコロナ禍で急速に拡がったオンライン会議システムの組織的利用法、その他最新ツールなどを学びました。オンラインではありましたが、分団協議を行い互いの報告や課題共有の機会にもなりました。役員会では月に1回の会議開催を継続し、1年の前半は担当者会の組み立てを中心に情報交換を行い、後半については現在のe-YMCAシステムの数年後のあるべき姿を協議・検討しました。

## ■英語・国際事業部門

### 英語教育担当者会

会長：松本数実 担当総主事：太田直宏

### 国際事業担当者会

担当総主事：太田直宏

英語教育事業と国際事業の担当者会は、英語・国際事業部門として再編成されました。英語教育によるコミュニケーション力の養成、国際事業による国を超えた多様性を知り受け入れる体験、両事業の融合によって共に生きる社会の実現を広く推し進めています。

英語教育は、全国24YMCA、49拠点にて実施され、約5,000名が在籍しています。5月に2回の全国担当者によるオンライン情報交換会を行い、のべ33名が参加しました。授業の実施状況についての情報共有やオンライン授業の導入と今後の可能性を探りました。秋には、昨年度懸案となっていた部会を編成し（「小学生」「中高生」「英語幼稚園・インターナショナルスクール」「成人・企業委託」の4部門）事業ごとの特性を踏まえた協議が行われました。例年12月に行われる中高生を対象としたイングリッシュキャンプは、3泊4日から3日間に期間を変更し、オンラインで開催しました。

国際事業部門では、担当者会（2021年2月15日、オンライン。20名出席）を行い、国内外の移動が厳しく制限されている状況においての国際協力・交流事業のあり方について、「横浜・光州・上海YMCA三都市会議」（横浜YMCA）、「オンラインを活用した平和学習」（広島YMCA）、「Youth for Causes」（大阪YMCA）の事例を共有しました。また、アジア・太平洋YMCA同盟が進める環境問題と気候変動へのアクションを目的とした、Green Teamのメンバーとして池田麻梨子（東京YMCA）より、環境に配慮したYMCAと生活スタイルについてアクションヒアドボカシーについて提言がありました。

## 全国キャンペーン

### キャンプ100年キャンペーン

1920年、大阪YMCAが少年たちのために試みたキャンプが六甲山麓で行われました。松林の中での2週間の簡易天幕生活キャンプで、日本における最初のキャンプとなりました。全国YMCAでは2018-2020年度の3カ年に渡り、「すべての子どもたちに自然体験を」～ユースボランティアとともに～をスローガンに掲げ、キャンプ100年キャンペーンを展開しました。最終年度となる2020年度は、キャンプ発祥の大坂YMCAが主管を担いシンポジウムを開催し、オンラインを駆使して全国から400名が参加しました。(2018年・東京、2019年・熊本にて開催) また、1965年に作成され、時代に応じて改訂しながら50年以上にわたり大切にしてきたYMCAキャンプスタンダードを、今日の社会課題やリーダーシップに応じ全面改訂をしました。

### ピンクシャツデー

「ピンクシャツデー」は、2007年、カナダの学生2人から始まつたいじめ反対運動です。全国YMCAピンクシャツデー2021キャンペーンでは、子ども社会のいじめのみならず、新型コロナウイルス感染症への不安や恐怖から生み出される差別や偏見にも目を向け、運動を展開しました。日本赤十字社製作のアニメーション「ウイルスの次にやってくるもの」の紹介や、全国169を越える拠点でのさまざまなキャンペーン活動により、YMCA内外約39,000名の賛同と、170を越える教育施設、企業、団体等の協力を得ました。

初めての試みとして全国7YMCAのアフタースクールをつなぎ、子ども会議を開催しました。17名の子どもたちが各々のYMCAの取り組みを紹介しあい、全国に同様の願いを持つ仲間がいることを知り、ピンクシャツデーの意味を改めて考える機会となりました。



(上) 青空の下、キャンプ100年記念Tシャツを着る仲間たち  
(下) オンラインで実施されたキャンプ100記念シンポジウム（大阪YMCA）

いじめについて考える子ども会議で発表する埼玉YMCAの子どもたち

## 現勢(全国・世界)

(2021年3月末現在)

### 組織

世界の国・地域	120
国 内	
都市YMCA(加盟・準加盟)	34(同盟含む)
・公益財団法人	24
・一般社団法人	7
・学校法人	14
・社会福祉法人	11
・NPO法人	7
・営利法人	5
・任意団体	2
学生YMCA	37
・寮学生YMCA	10
・サークルYMCA	17
・設立準備中／連絡YWCA	10
うち公益財団法人	3
一般財団法人	1
全国の活動拠点	430

### メンバー

世界で運動に関わる人の数	6500万人
国内の年間登録者の数	6万9千人

### ボランティア

総会構成員	6,000人*
ボリシーボランティア	1,400人*
ユースボランティア	2,600人*
認証ユースボランティア	累計17,669人

\*ユースボランティアとは：野外・ウェルネス・障がい児プログラム・国際などの分野で  
子どもたちに寄り添い、成長を支えるボランティアです。

\*(2020年8月末現在)

## 関係団体

### ワイスメンズクラブ国際協会

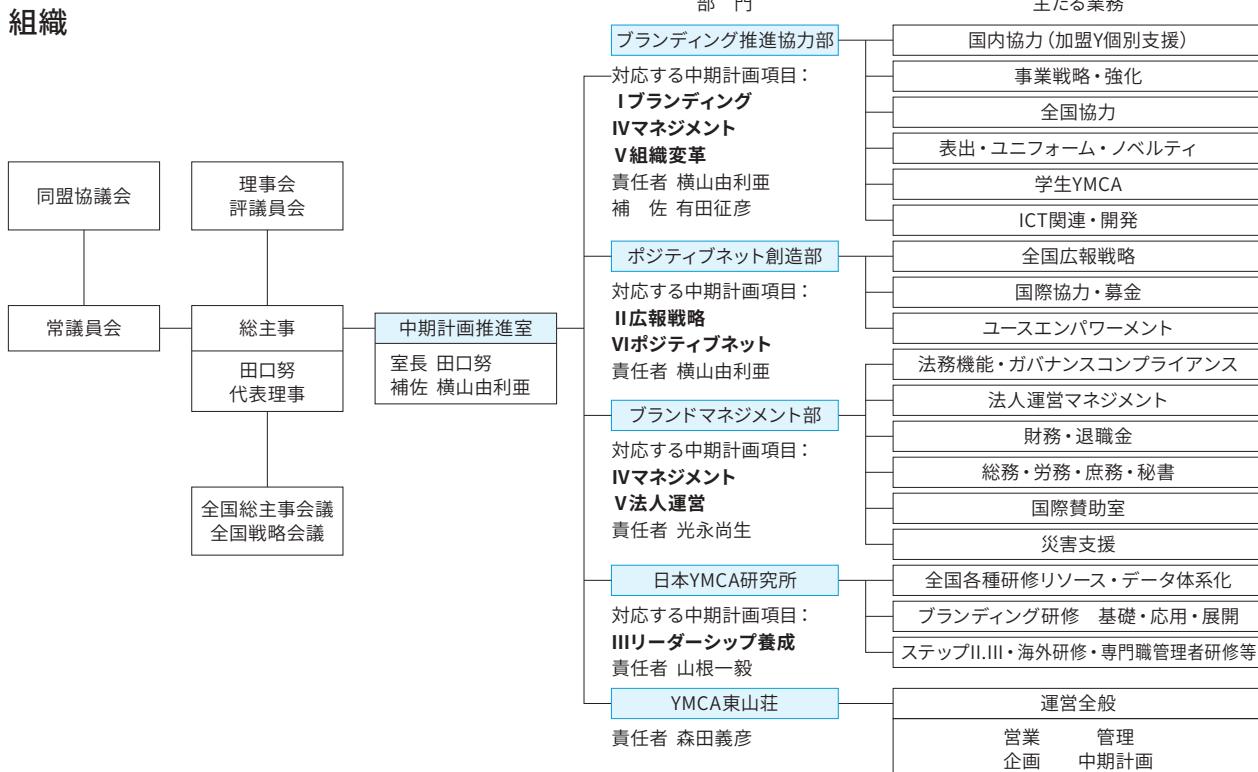
・東日本区  ・西日本区

### 関係・友好諸団体

- ・世界YMCA同盟
- ・アジア・太平洋YMCA同盟
- ・世界学生キリスト教連盟
- ・日本キリスト教協議会
- ・公益財団法人 日本YWCA
- ・公益財団法人 日本レクリエーション協会
- ・公益財団法人 日本キャンプ協会
- ・公益財団法人 ポーイスカウト日本連盟
- ・公益社団法人 ガールスカウト日本連盟
- ・公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー
- ・公益社団法人 日本キリスト教海外医療協力会(JOCS)
- ・認定NPO法人 開発教育協会(DEAR)
- ・認定NPO法人 日本NPOセンター
- ・認定NPO法人 国際協力NGOセンター(JANIC)
- ・一般社団法人 協力隊を育てる会
- ・社会福祉法人 全国社会福祉協議会
- ・「広がれボランティアの輪」連絡会議
- ・認定NPO法人 全国災害ボランティア支援団体ネットワーク(JVOAD)
- ・ECPAT／ストップ子ども買春の会
- ・広げよう！子どもの権利条約キャンペーン
- ・教育協力NGOネットワーク(JNNE)
- ・JYPS (Japan Youth Platform for Sustainability)
- ・ローレウス・スポーツ・フォー・グッド財団

# 2020年度日本YMCA同盟 組織・職員

## 組織



部 門	業 務	氏 名		
		主務者	職 員	嘱託・パート・インター
全 一 般		総主事	田口努	
中期計画推進室		室 長	田口努	横山由利亞
プランディング推進協力部	プランディング推進支援／物販事業対応	主任主事	横山由利亞	山田紀久美
	国内協力	主任主事補佐	有田征彦	山田紀久美 平田真姫
	学生YMCA	主任主事	横山由利亞	石橋英樹 森小百合
ポジティブネット創造部	全国広報戦略 ユースエンパワー 国際協力	主任主事	横山由利亞	石川晴美 上條直美 高田望(インター)
ブランドマネジメント部	法務機能／ブランドマネジメント 労務・庶務／総主事室 総務 財務／退職金・年金基金 史資料 システム管理 災害支援 国際賛助室	主任主事	光永尚生	波多尚子 山田紀久美 市来小百合 波多尚子 小野寺みさき 波多尚子 山田紀久美 石川晴美 大岩弘子 小野寺みさき
日本YMCA研究所	全国各種研修・海外研修	所 長	山根一毅	杉野歌子 横山明子
YMCA東山荘	営業・広報／マネジメント プログラム・事業開発 フロント ナイトフロント 予 約 施 設 客 室 労務・庶務 会 計	所 長 副所長	森田義彦 山根一毅	沼田光隆 横山明子 盛岡美貴 滝口敦子 杉野歌子 白鳥裕之 盛岡美貴 滝口敦子 横山明子 滝口敦子 渡辺桃衣 鈴木貴子 沼田光隆 遠藤舞 真田真由美 遠藤舞 山田仁 藤澤幸伸 芹澤正 小倉正人 山根一毅 堀ノ内由枝 杉山菜津美 加藤由香里 羽鳥喜和子 小野隆義 野木千賀世

出向(千葉) 真鍋泉

# 2021年度日本YMCA同盟 事業方針・計画

年間聖句

「光は暗闇の中で輝いている」  
(ヨハネによる福音書1章5節)

歴史的な世界同時パンデミックの中でレジリエンス、リカバリー、リイマジネーションを目指し、「日本YMCA中期計画(2021-2023)」の灯を掲げた事業方針・計画とする。

## 1 Positive well-being

Positive well-being を提唱し、「みつかる。つながる。よくなっていく。」の体験提供を通して全人一貫教育の価値を最大化し、社会の健康を目指す。

①Spirit・Mind・Bodyの育成と調和とSocial(社会参画：つながりの中でよりよく生きる)という視点を加え、誰もが不安と喪失を抱える時代において人間性の回復と人ととの連帯によって培われるPositive well-being を、YMCAの健康理解として提唱する。多様な分野のリソースパーソンと共にワークグループを作り、推進の助けとなる研究成果を発信する。

②「わたしたち(社会)がよくなる」ことが「わたし」の喜びとなる隣人に仕えるリーダーシップを育み、一人ひとりに伴走する全人一貫教育(YMCA伴走サポート)に「みつかる。つながる。よくなっていく。」体験・経験という強みを最大限に活かし、すべての事業・活動の再興を図る。

③生まれる前から、高齢者(墓場の後)まで生涯にわたってのライフパートナーとなり、社会とつながる全人的な出会いと成長がある共に育つ“共育の場”として、会員活動、ボランティア活動、市民活動やパートナーとしてワイズメンズクラブなどの活動支援や連携を強めていく。

## 2 Youth Empowerment

若い世代が夢を持ち、自己実現のために参画できる社会を創造する。YMCAは若者の信頼できるパートナーとして、時代に適応し姿を変える。

①予測のつかない羅針盤のない世界において、正義感と時代を読む感性に突き動かされ行動し、新しい未来を創造していく姿はYMCA創設時の姿である。閉塞感のある若い世代のメンタルヘルスを注視して支援しつつ、夢を持ち、自己実現のために参画できる社会創造の機会を創り出していく。

②中高生や青年期のユースによる社会課題解決のための社会的起業や社会提案などによるポジティブネット実現に向けた働きをパートナーとして連携していく。

③未来のステークホルダーでありデジタルネイティブである世代と共に、地球温暖化・気候変動の課題など未来社会創造へ向けたIT、AIを活用した社会変革を目指す。

## 3 Technology for social inclusion & diversity

インクルーシブな社会の実現のために、あらゆる場面でテクノロジーを活用し、多様なオンラインコミュニティのプラットフォームとなる。

①テクノロジーの拡大により、オンライン上で多様なコミュニティが生まれ、より手軽にグローバルな規模で、学校、職場、家庭ではない自己実現や社会参画が可能となっている。YMCAはオンラインを健全かつ建設的に活用し、生きる喜びにつながるテーマや社会課題でつながるインクルーシブなコミュニティ創造のプラットフォームを構想する。(ymca.positive.net 構想)

②新しいテクノロジーを取り入れて業務の合理化・効率化を図る。また、地域のデジタル格差による学び、健康、経済活動などの機会損失について、Amazon Future Engineer等を推進する。

③オンラインによる会員懇談、子育て支援（保護者懇談・家庭訪問等）、相談事業等の支援や、オンラインによる加盟YMCA訪問・相談事業、海外交流・パートナーシップなどを開発し、展開する。コロナ時代のYMCAグローバルネットワークコミュニティを構築していく。

## 4 Partnership

地域社会の課題に対し、企業や行政、地域の諸団体をパートナーとし、時にかなったスピード感をもって解決に臨む。

①コロナ禍であらわとなった地域社会の課題について、世界の持続可能な開発目標（SDGs）の健康、気候変動、平和、メンタルヘルス、ジェンダーなどの視点をもってYMCA活動を展開する。

②目的を同じくする企業や行政、地域の諸団体と対等なパートナーシップを組み、それぞれの特性を生かして共に地域社会の課題解決に臨み、アドボカシーへつなげる。パートナーシップによるプロジェクト型寄附の働きを強め、「寄附を受ける団体」として社会的認知度を向上する。

③目的が具体的で明確な社会課題解決活動、スケール感のあるパートナーシップは、理想を求める中学生・高校生など若い協力者に訴求する。テーマで協働するユースリーダーや学生YMCA、会員の活動の展開につなげ、これを推進する。

## 5 Change Agent

未曾有の世界危機において、YMCAに関わる一人ひとりがポジティブネットの実現のために地域、世界の課題に臨みChange Agent（Global Servant）の育成に注力する。

①自国の感染・経済対策を優先させる中で、途上国の貧困対策、教育支援が大きく遅れている。また、世界的に民主主義の根幹が揺らいでいる。わたしたちのいのちが誰かの犠牲の上に成り立つことがないよう、足元のコミュニティで、そして世界で、YMCAがポジティブネットを届けるべき先を考え、行動していく。そのために、

グローバル社会と環境の課題を深く理解し、解決していくために必要な教育や研修、実践の機会を作り出していく。

②すべての地域の課題は、世界の課題とつながっている。自宅の電気、水、食料、プラゴミなど家庭での一人ひとりの取り組みの積み重ねが地球規模の課題解決に不可欠である。自然エネルギーなどの転換活動など、YMCAからはじめ会員や家族を巻き込んだ運動に展開するなど、具体的な実践を推進する。

③いじめ、差別、偏見といったヘイトにつながる人権の問題を根底に考えるピンクシャツデーなど社会に変化をもたらす活動に、子ども、ユース自ら主体的に発信し、変革を促すなど身近な課題へ取り組めるよう育成する。さらに、YMCAのグローバルネットワークを生かし、世界中の次世代リーダーとの協働を通して複雑な課題を解決し、地域でも、世界でも活躍できる真のChange Agent（Global Servant）の育成に注力する。

## 6 全国のYMCA運動の連結ピンとしての同盟機能の維持に努める

①世界YMCA同盟、APAY、ナショナルYMCAと連帯して、加盟YMCAとのつながりを強める結節点の役割を強め、コロナ時代における地域の課題と世界の課題の共有や国を超えたYMCA、ユース、会員と共に世界的YMCA運動として躍動感を持てるように努める。

②全国YMCA代表機能として、国内外の国際的な青少年団体、NGO・NPO、関係諸団体、社会的起業関連団体、企業、行政・政府機関、助成団体との連携を深め、情報提供や加盟YMCAの事業強化、プロジェクト型寄附や他団体との協働につなげる働きを強める。

③加盟YMCAのレジリエンス、リカバリー、リマネジメントが強まるよう総主事会議、事業推進の会議に関連する経営タスクやガバナンス強化タスクなどの事務局機能を務める。国内協力委員会と連携してコロナ時代に対応するYMCAを目指す。全国のYMCA職員が安心して働くよう総務連絡担当者会等を通して働き方改革や健康経営の推進情報提供を進める。退職金中央基金、職員年金基金の安定化を目指し、加盟YMCAの新規加入者の増加を図る。

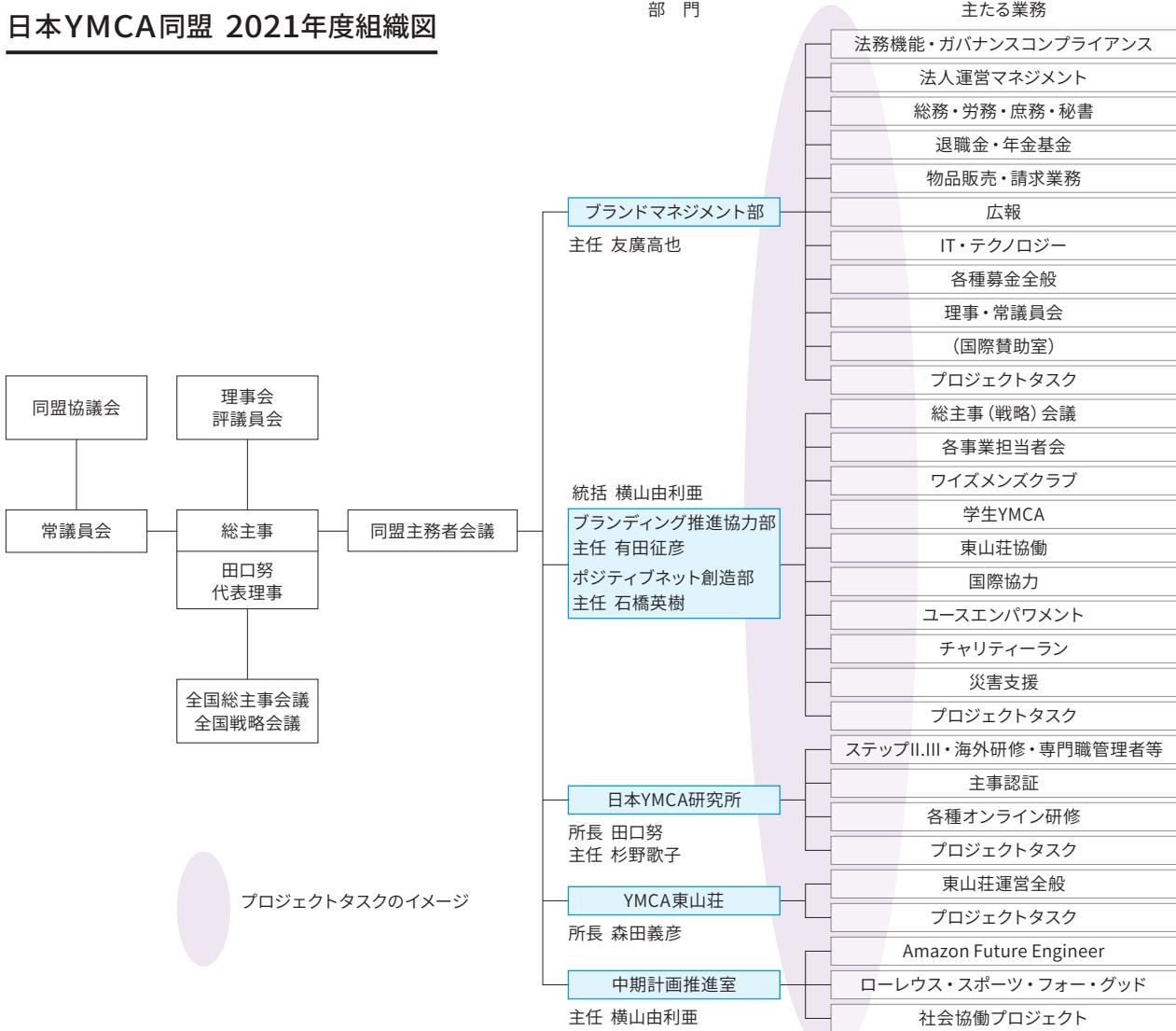
## 7 同盟事務局機能の効率化と YMCA東山荘の再建、運営強化を目指す

- ①日本YMCA研究所として、全国の主事養成並びにスタッフ養成に力を注ぐ。オンライン研修として新採用職員向け、専門職向けにプランディング・伴走支援研修、中期計画等の動画研修教材作成、感染予防、リスクマネジメント研修など小規模YMCAでも大規模YMCA同様の研修を受講できるようオンライン、ハイブリットなどを活用した研修機能を強化する。
- ②コロナの影響を受けるYMCA東山荘の安定した運営を目指し、近隣地域との連携を深め、地域活動を引き続き強めて県域からの利用増を目指す。利用者が増えて

いる自然体験活動はコロナ禍においてモデル事業となるよう、発信力を高める。学生YMCA活動、加盟YMCAの青少年・ユース育成、SDGs対応施設としてグローバルな人材養成を進める国際青少年センターを目指す。

③同盟内の事務効率化を目指し、縦割りの部門ごとの業務分担を超えて、事業プロジェクトごとのチームなど柔軟な業務体制、およびIT、AIの活用で業務負担の軽減、テレワークの活用などを進め、同盟内の四谷、YMCA東山荘の業務の一体化、効率化を目指し、新規事業、自主財源の確保等を目指し、2022年度には、収支バランスがとれるよう目指す。

日本YMCA同盟 2021年度組織図



# 日本YMCA 中期計画2020(2017-2020) 評価

## YMCAブランドの革新による胎動から躍進へ

### 中期計画2020前文

#### 現代のYMCAの課題

日本のYMCAは、創立以来、青少年活動の先駆的な役割を果たし、YMCAブランドを維持してきましたが、現代では「よく知らない、イメージがわからない」(2015年度実施「生活者アンケート」)という団体であり、このままでは、将来にわたって使命を果たしつづけることが困難となり、存立の危機と言わざるを得ません。また、財政的にも課題がより大きくなるものと考えます。

#### YMCAのチャレンジ

2014年度、日本YMCA同盟はこれを一つのチャレンジと捉え、「YMCAブランドの再生」を求めて日本YMCA同盟中期計画(2014–2016年度)を始動させました。2014年から3年間、YMCA本来の宝を今一度発見し、これから時代において価値となる「YMCAとは」を考え抜き、コンセプトに仕立て直すことに取り組んできました。その成果として、2016年6月の同盟協議会においてYMCAブランドの土台となる「ブランドコンセプト」を発表するに至りましたことは、大きな一歩でありました。

#### ブランドスローガンとロゴ

さらに、この土台に基づいて、ブランドスローガン

**みつかる。つながる。よくなっていく。**

を掲げ、ロゴマークを刷新いたしました。新しいロゴは、伝統的なYMCAスピリットに基づき、日本YMCA基本原則が謳う「平和」をめざし、未来へ羽ばたいていくとする日本のYMCAを象徴するものです。

#### さらなる協力・連帯を目指して

2017年度は、このブランドコンセプトに基づいて、もう一度YMCAの事業や運動を見直し、各YMCAが協力・連帯する躍進の時です。これまでの成果に基づいて、從来

の「日本YMCA同盟中期計画」を改め、オールジャパンYMCAのさらなる協力・連帯を目指して、「日本YMCA中期計画」といたしました。

「日本YMCA中期計画2020」は、ユースが主体となるYMCA運動を再構築し、その事業の質を高め、人びとの共感、支援・寄附、賛同する会員の増加を目指すものです。しかし、それは単に事業成績としての目標ではなく、「ポジティブネット」の実現の指標の一つであると考えます。

#### 「神の国の拡張」としてのポジティブネット

「ポジティブネット」のある豊かな社会を創ることは、パリ標準において謳われたYMCAのミッション「神の国の拡張」につながるものです。イエスは、

神の国は、からし種のようなものである。土に蒔くときには、地上のどんな種よりも小さいが、蒔くと、成長してどんな野菜よりも大きくなり、葉の陰に空の鳥が巣を作れるほど大きな枝を張る（マルコ4：31-32）

と言われました。わたしたちはYMCAから「ポジティブネット」が世界に広がっていくビジョンを共有し、この空の鳥が集い、互いに寄り添って巣を作るよう、人びとを惹きつけ、そこにかけがえのない場所を見出すことを目指していきます。

#### ユース育成のビジョンこそ力

「葉の陰の巣」は、子どもとユースを中心にしてすべての人が安心して育まれていく場所の象徴です。YMCAは、ユース自ら社会の課題をみつめ、自己と社会の変革のためのアクションに向かっていく場となることを目指しています。イエスによって示された「神の国」に導かれる総合的なユース育成のビジョンこそ、YMCAのプランディングを推進する力です。

## 総括

2014年、日本のYMCAは「YMCAブランドの再生」を求めて日本YMCA同盟中期計画（2014-2016年度）を始動させた。それは、いま、個々の力を結集してYMCA総体の大きなパワー（うねり）となるよう価値を転換しなければ、変化の大きな時代に適応しながら社会を変革し続けることが難しく、YMCAは埋没してしまうという危機意識によるものだった。そして、本来の宝を今一度発見し、これから時代において価値となる「YMCAとは」を全国で考え、新たなYMCAブランドの土台となる「ブランドコンセプト」を発表するに至った。

続く今期中期計画（2017-2020年度）では、従来の「日本YMCA同盟中期計画」を改め「日本YMCA中期計画」とし、「ポジティブネットのある豊かな社会の実現」に向けてオールジャパンYMCAでさらに協力・連帯を進めること、すべての運動・事業の質を高め、ユースや地域社会からの共感、支援・寄附、賛同する会員・協力者の増加を実現の指標とした。変革の旗印としてのロゴ・スローガンの発表を皮切りに、事業へのブランディングの落とし込みと広報展開、次世代のリーダー養成、マネジメント強化と組織変革、ユースエンパワーメントなど6項目にわたり進めてきた。

ブランディング第Ⅱ期にあたる今期中期計画は、「旗印（表出）の一致」から「中身の共通化」や「マネジメントや組織の変革」を目指すプロセスであり、多くの積極的な議論がなされた。それは、方向性について本質的に一致しつつ、同時に個々のYMCAの地域性、独自性とバランスを図りながら全体最適となる方策を見出そうとする生みの苦しみであった。その中から、ひとりの子、ひとつの家庭に寄り添いながら一貫して子育てと子育ちを応援し続ける全人一貫教育「YMCA伴走サポート」が誕生した。「伴走」とは主役となる人と共に歩み、苦しみと喜びをわかち合いながら、その人が目指すものをSprit(精神)、Mind(心)、Body(身体)にわたる深い人間理解に基づいて支える働きである。キリスト教に基づく良質な教育価値として、事業現場への浸透と社会的認知を図って来た。

2019年度末より、新型コロナウイルスの世界的な拡大によってYMCAも未曾有の事態に直面した。地域社会の課題が浮き彫りになる中、活動の現場で一人一人が“ポジティブネットの実現の姿”を思い描き、自ら突き動かされ行動し、灯を掲げる働きを担い続けている。この戦後最大といわれる危機において、YMCAのブランディングによる価値が地域社会から切実に求められていることを全国のYMCAが確信した。以下に、今期中期計画の基本方針について評価し、地域社会のレジリエンスの回復とポジティブネット創造のためにブランディング第3期となる次期日本YMCA中期計画に祈りと希望をもってつなげたい。

日本YMCA同盟（中期計画推進室）  
総主事 田口 努

## 評価

### 【基本方針】

#### 1. ブランディングを推進し、ミッションを明確にする。

社会との約束であるブランドコンセプトに基づいて、YMCA全事業の見直しを進め、その価値を高める。YMCAの姿が明確に伝わることで、社会から共感と信頼を得る。YMCAのキリスト教使命（ミッション）を明確にする。

2017年6月に新しいロゴ・スローガンを発表し、同年10月より全国で一致したブランドイメージの発信を開始した。ブランドコンセプトを説明したブランドブックを作成し、研修を各地で行い、関係者に周知を図った。変革の旗印となるロゴ“ポジティブY”、ビジョン「ポジティブネットのある豊かな社会の創造」、スローガン「みつかる。つながる。よくなっていく。」を核として、未来へ向かって羽ばたいていく意思をわかちあった。

2018年より、ブランディングの事業への落とし込みを目的に、事業コンサルテーションとして事業領域化、KPI（重要業績評価指標）、全国約250名の現場スタッフインタビューを実施し、すべての事業分野でブランド理解を進めた。このプロセスから全人一貫教育を可視化した「YMCA伴走サポート」と「YMCA成長応援指標」が導き出され、精査を繰り返しながら中身のブランドづくりへと歩み出した。

事業のうち、領域1.「子育て子育ち」と4.「社会に貢献」から注力していくことを決定し、「YMCA伴走サポート」の段階的導入と、プロジェクト型寄附による新しい社会課題解決事業“Amazon Future Engineer 誰もがテクノロジーで世界を変えられる”が全国でスタートした。プロジェクト型寄附とは、地域社会の課題に対して、企業や行政をパートナーとし、それぞれの資源や特性を生かして解決に臨むもので、Amazonに続き、NIKE、MUFG、文科省などからもブランドへの期待が高く、次期中期計画において柱の一つとなる。

日本YMCA基本原則を基盤としたブランドコンセプトによって、YMCAのキリスト教使命が今日的な文脈で新たに捉えなおされ、特にコロナ禍では「いまこそ、ポジティブネット」が働きにつながりYMCAを強めるものとなっている。

#### 2. 全国的な広報戦略を策定する。

広報戦略を立案し、恒常的かつ機動的にスケールメリットを生かして、社会に発信ができる体制と体質を作る。社会に貢献する働きを明確にすることによって、賛同や寄附を得る組織風土を確立する。

ブランドロゴ・スローガン刷新にあたり「全国YMCAビジュアル標準化ガイドライン」を定め、2017年10月より全国のYMCAにおいて、看板、WEBサイト、ユニフォームなどを刷新した。これは大きな負担を強いるものであったが、「一つの群れ」としてのYMCAが、スタッフ・会員・メンバーに強く意識されるようになった。2019年に、YMCAブランドと事業領域、「YMCA伴走サポート」を整理し、全国共通の広報冊子“アクションブック：YMCABRAND”を作成した。YMCAが「広く社会に貢献する団体」であり、プロジェクト型寄附において行政、関連団体にとって社会課題解決のパートナー足りる団体との認識向上につながった。YMCA単独ではなく、パートナーとともに社会に貢献する働きによって、企業等の独自メディア（Owned Media）で取り上げられるようになった。

また、コロナ禍においては、いち早くテクノロジーを活用してつながりの再構築を試み、「はなれていてもつながっている」メッセージを多言語で発信、健康や学び、「共同の祈り」をテーマとしてオンライン配信を全国で進めた。青少年教育に関わる団体とは「新しい生活様式下での青少年活動の再開」について共同声明を、日本赤十字社とは「感染症への不安や恐怖から起こる差別や偏見」についてキャンペーン展開等を行った。「誰もが、公正・公平に夢をかなえるチャンスのある地域社会の創造」を8項目（多岐）にわたり社会に宣言し、ボジティネットYMCA募金活動につなげることができた。

全国的な広報「戦略」の立案と実行にまでは至らなかったが、YMCAが本質において一致し、社会に貢献する働きを明確にすることで、賛同や寄附を得る組織風土づくりを実践において進めることができたと考える。

### 3.リーダーシップ研修の充実を図り、強化する。

次世代の日本YMCA運動のリーダーシップ像を、スタッフ、ボランティア、ユースリーダーにおいて明らかにする。全国で行うすべての研修を捉え直し、カリキュラムを整え体系化する。

日本YMCA研究所では、全国で行うすべての研修を調査し、ステップⅡ・Ⅲについて新たなブランドコンセプトに基づき研修体系・カリキュラムを再構成した。地域の課題をみつけ、広い視野と深い洞察をもって課題解決に導くことのできる人財養成に努め、内容の刷新、講師陣の世代交代などを図った。

専門職管理者をYMCA運動の担い手とするための研修を17-19年度にわたって開催し、さらに20年度はオンラインによる「新型コロナウイルス感染症対策研修」をいち早く実施した。中国、米国など世界のYMCAにおける先駆的な感染症対策の事例から学び、キャンプのフィールドガイドなどに基づいた日本のYMCAでの感染症対策を、行政や地域に強くアピールし、YMCAブランドの価値を高める実例となった。この他、「YMCAブランド表出研修」(17-20年度)、「YMCA伴走サポート導入研修」(19-20年度)、「Amazon Future Engineer指導者研修」(19-20年度)など多様な研修を展開し、オンラインではYMCAの規模を超えて全国から合計1,000名を超えるスタッフの参加を得た。オンラインを活用した研修によって、社会の変化に対応するYMCAスタッフの養成が全国で飛躍的に可能となり、次期中期計画ではさらにウェビナーの活用や単位制の受講なども推進したい。

就労環境（働き方）については専門家を入れ、就業規則の改訂や、管理者に対しての経営指標講習会、ハラスマント講習会等を開催した。コロナ禍においては、雇用調整助成金、持続化給付金などの助成金申請のための情報共有と、新たに休眠預金獲得講座も行い、事業を支えるために必要な総務連絡講習に力を入れた。一方で、テレワークはじめ多様な働き方にについて試みた。

全国的な人事協力・交流についてトップリーダーシップ・管理職層に統いて若手・中堅レベルでの事例があったが、計画的な展開にまでは至ってはおらず、今後、地域を超えて、テクノロジーを活用したプロジェクトタスクでの業務推進の形なども進めたい。

### 4.YMCAマネジメントを強化し、確立する。

すべてのYMCAの発展に資するように、マネジメントの強化を徹底して図り、システムの確立を目指す。全国的な視野で事業強化を推進して財政基盤を強固にすると共に、コンプライアンスを遵守する組織となる。

全国YMCAの総合的マネジメントの確立には至っていないが、全国YMCA財務分析、またコロナ禍の緊急アンケートを通して危機の早期発見が可能となった。全国YMCA振興資金の迅速な活用や、総主事会議、地区総主事会議による自立的な動きとして相互扶助・支援によるマネジメントが始動した。19年度末からオンラインの活用により総主事会議やテーマ別の情報交換が頻繁に行われるようになった。

全国YMCA総主事会議において、YMCAのマネジメントシステムについてたびたび協議し、合理化や効率化の必要性について共通認識を持ったが、費用や時間、プロセス等の課題を克服するには至らなかった。一般的の企業とは異なり、全国一律ではなく歴史や地域を踏まえた独自性を包括したYMCAのシステムについては今後も議論を継続する。

プランディングによるユニフォームやノベルティの全国集約のシステムを開発し、コスト削減と高品質化を進めた。YMCAの健全運営の指標化としてKPIの手法を試みたが、現場への負担に比してゴール設定が不明瞭であったことからいったん休止とし、「KPIの前提となる基礎調査」としてより簡易的に数値が収集できるシステムへ切り替えている。

### 5.日本YMCA運動を組織変革する。

日本YMCA運動としての一一致と協力、将来にわたる推進のため、組織構造を変革する。日本YMCA同盟は中期計画推進機能をより「見える化」し、新たにブランド・マネジメント機能を確立する。

日本YMCA運動の組織変革は、もっとも難しいテーマとなった。プランディングは組織文化・風土に一致と協力をもたらし、士気を高めることにつながった。事業領域化のプロセスを経て20年度からは「子育てと子育ち」に力点を置き、全国事業担当者会を再編した。

総主事会議は東日本・中日本・西日本などエリアを単位に役割を強化し、エリアを総合的に捉えて課題認識がなされる他、災害時に迅速に支援ネットワークを形成できるようエリアセーフティの仕組みも整った。当初計画に定めた「エリアで総主事・スタッフ不在のYMCAを含めて統括する広域化や事業毎での全体運営戦略化の多角的検討」においては、各YMCAの独自性を損なう形での構造変革に積極的に賛成するものは少なく、事業についても目標の設定と成果の責任の所在や体系の設定については検討段階で、ゆるやかな形となっている。

YMCA運動を将来にわたって推進するために、今後、地域に根差すYMCAの独自性と、全国規模での事業戦略、そして新たにテクノロジーを活用したボーダレスな事業展開など、これらと各YMCAの運営にかかる意思決定の自律性をいかに整理していくのか、重要な継続議題となる。次期中期計画においては、この変化の時代におけるYMCAガバナンス、役員のリーダーシップの役割、会員活動の将来像など、積極的に議論していきたい。

## **6.ポジティブネット実現の姿を示し、ユースエンパワーメントを推進する。**

“ポジティブネットのある豊かな社会”を創造することを決意し、働きを通して社会に示し続ける。グローバルな基盤を活かして、ユース自らが考え方行動するネットワークを広げ、ユースエンパワーメントを推進する。

グローバルな基盤を活かしてユース自らが考え方行動するネットワークを広げ、YMCA地球市民育成プロジェクト（17・18年度）、日中韓平和フォーラム（17・20年度）、アジア・太平洋YMCA大会／ユースアッセンブリー（19年度）、世界YMCA同盟チェンジ・エージェント、アジア太平洋YMCA同盟YPLD（Youth Participation Leadership Development）への派遣など行った。特に54年ぶりに日本で開催したアジア・太平洋YMCA大会はホスト国として100名を超えるユースをはじめ、全国の会員・ワיזの協力を得て、地球環境や気候変動、貧困や差別、抑圧に目を向け、異なる文化や価値観の間に調和を生みだす、真の平和を創する者としてどう行動すべきかを真摯に考えることができ将来に向けて大きな財産となった。

学生YMCAは、全国夏期ゼミナール（17・18年度）、日韓交流プログラム（18年度）、インドスタディキャンプ（17・18年度）、そして130周年記念フォーラム（18年度）を開催した。

20年度には、オンラインを通して世界YMCA同盟による気候変動、環境、ユースのメンタルヘルスなどのタスクに、ユース・若手スタッフが積極的に参画するようになっている。ユース委員会が主導して「コロナ禍におけるユースの生活調査」を行い、YMCAに関わるユース世代が抱える課題とそのための支援が明確となった。また、SDGsや社会課題解決に臨む高校生グループともつながり、次期中期計画では社会課題解決に共に臨むパートナーとしてさらに展開を図っていきたい。

この間も、九州北部豪雨（17年度）、西日本豪雨（18年度）、台風15号・19号（19年度）、熊本豪雨（20年度）と災害が相次ぎ支援活動・募金活動が全国で展開され、2019年度よりYMCA間の情報と知見の共有を図るネットワーク「YMCAエリアセーフティ」が整えられた。

## **最後に**

中期計画聖句：神の国は、からし種のようなものである。土に蒔くときには、地上のどんな種よりも小さいが、蒔くと、成長してどんな野菜よりも大きくなり、葉の陰に空の鳥が巣を作れるほど大きな枝を張る（マルコ 4:31-32）

創立時からのブランドロゴを変え、「みつかる。つながる。よくなっていく。」ことを決意してスタートした今期中期計画は、もっとも大切なひととのつながりが絶たれるという未曾有の危機の中で最終年を迎えた。いま私たちが十分に評価できないことは、歴史の中で社会が評価することになるだろう。この計画推進のために惜しみない協力と連帯をかけてくださった日本YMCA同盟常議員会、全国YMCA総主事会議、全国のYMCA関係者すべてに心から感謝したい。

空の鳥が集い、互いに寄り添って大きな枝に巣を作るよう、YMCAから隣人、地域、世界に広がっていくポジティブネットのビジョンは、いまこそ人びとをひきつけ、かけがえのない場所となることを信じ、祈りをもって終わりとしたい。

# **2020年度事業報告書**

**Annual Report 2020**

2021年6月1日発行

発 行 公益財団法人 日本YMCA同盟

〒160-0003 東京都新宿区四谷本塩町2番11号

Tel 03-5367-6640 E-mail info@japanymca.org

制 作 pros creative



みつかる。つながる。よくなっていく。